

新唐津市民会館（仮称）改築設計業務

基本設計（案）【概要版】

2022年8月

唐津市

1. 計画コンセプト	……	01
2. 施設計画	……	02～04
3. 展示場計画	……	05
4. ホール計画	……	06
5. 景観・環境・設備計画	……	07

新たな唐津の歴史・文化・まちの拠点をつくります



1 屋根でつなぐ新しい街のシンボル

- 市民会館（ホール）と曳山展示場を一体的な屋根でつなぎ、文化+観光の拠点とします。
- 唐津城、唐津神社など唐津市の歴史的建造物の屋根に呼応する屋根のデザインにより、まちの景観とのネットワーク化を図ります。



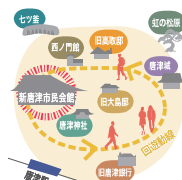
4 魅せる曳山展示場をつくります

- コ型の平面形状とすることで、14台の曳山を一望可能とし、曳山に囲まれた迫力ある展示空間とします。
- 唐津くんちを疑似体験できる展示や、円形の映像シアター等、体感性が高く、迫力のある演出を行います。



2 まちをつなぎ、情報発信する観光拠点

- 「文化+観光」の発信創造拠点をつくることで、人の流れが生まれ回遊動線が活性化し、市内観光施設との連携を強化します。
- 工夫された曳山展示だけでなく、展示ギャラリーで市内文化・観光施設との連携、情報発信を行い、「まちはミュージアム」を実現します。



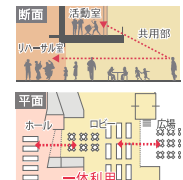
5 臨場感あふれるホールを実現

- ブドウ畑のように客席が段状に分割され、舞台を取り囲み、客席と一体化するワインヤード形式のホールとします。
- 舞台側の客席を可動式とすることで、プロセニウム形式にも対応可能な、日本でも類を見ない、ワインヤード型多目的ホールとします。



3 日常も賑わう文化施設

- 誰もが気軽に立ち寄れる空間として、イベントや祭りのない日常にもにぎわいを創出します。
- 広場と連携できるロビー、ホールや、無料開放できるホワイエ等、唐津くんちやイベント時の利便性を確保します。



6 誰でも使いやすいユニバーサルデザイン

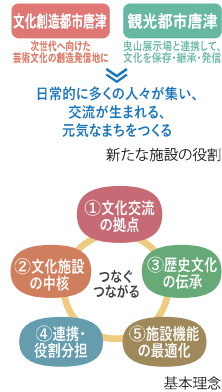
- 建物全体のバリアフリー化を行うだけでなく、音声案内や分かりやすい誘導サインを設置し、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを目指します。
- 障害の有無、年齢、性別、文化、国籍、言語に関わらず多様な人々が利用しやすいようサインを使用し、多言語標記を行います。



新しい街のシンボルとして、市民会館と曳山展示場を一体的に整備します

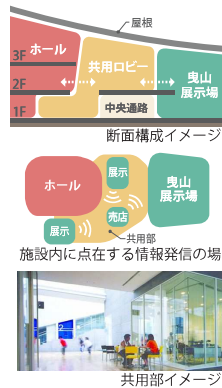
■ 新唐津市民会館の役割

- 文化芸術により市民に安らぎや活力を与える場として、優れた文化芸術に触れることによって、市民による自主的な文化芸術活動を促進し、市民の創造性や表現力を生み出すことを目指します。
- 文化芸術活動が盛んになると同時に文化交流、地域間交流、世代間交流など様々な交流が生まれ、福祉の増進、まちの賑わいや活性化につなげていくことを目指します。
- 唐津に誇りを持ち続けられるように、将来を担う人材や団体の育成に力を注ぎます。また、そこから生み出される文化芸術が持つ力と唐津の伝統文化とが連動して、広く唐津の魅力を発信することができる文化交流の拠点を目指します。



■ にぎわいと機能連携に配慮した施設計画

- 曳山展示場と市民会館は中央通路の2階レベルで接続し、共用ロビーや吹き抜けを介して一体的につながる空間とします。
- 曳山展示場と市民会館の受付、管理事務室を共用とし、市民会館側に配置し、曳山展示場への出入口も市民会館側とすることで一体的な管理を行います。
- 曳山展示場だけでなく、市民会館側にも展示スペースや売店を設けることで、曳山展示場を訪れた人以外の来館者にも情報の発信を行います。
- 共用部には机、椅子を各所に配置し、人々の居場所をつくることで、様々な利用目的の来館者が集うことのできる施設とします。



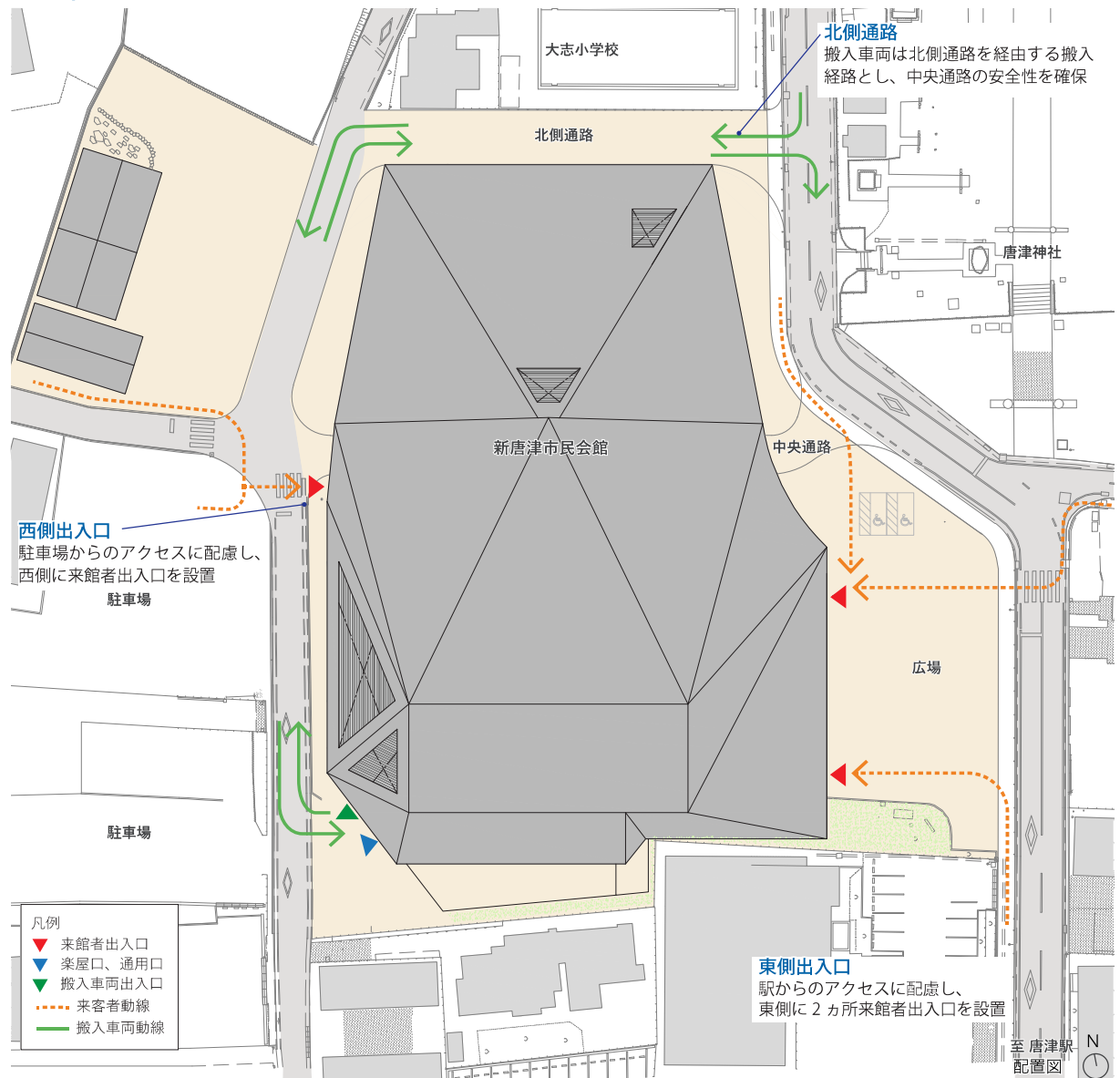
■ 敷地概要

所在地 : 佐賀県唐津市 西城内 6-33
敷地面積 : 約 7,275㎡
用途地域 : 第一種住居地域
指定容積率 : 200%
指定建ぺい率 : 60%
(角地+準防火地域内の耐火建築物等 80%)
防火地域 : 準防火地域

■ 計画概要

主要用途 : 公会堂、展示場
消防法防火対象物 : (16) 項イ 複合用途防火対象物 [(1) 項 (ロ) 公会堂・(8) 項 展示場]
構造 : RC造 (一部、SRC造)、S造
建築面積 : 約 5000㎡
延べ面積 : 約 8400㎡
建物高さ : 約 26 m
階数 : 地下1階、地上3階
ホール客席 : 幕形式 800席
コンサート形式 1000席

■ 配置計画



施設計画 2



①共用部イメージ

展示ギャラリー2

デジタルサイネージ等を用い、市内文化施設の開館情報・イベント・観光情報を発信していきます。



デジタルサイネージ 参考事例

トイレ

ホール不使用時は共用部トイレとしても使用可能とします。

屋内身障者用駐車場

雨に濡れずに直接施設内にアクセス可能な屋内身障者用駐車場を設置します。

舞台備品庫

搬入口、舞台に近く搬入がしやすい上手側に配置します。

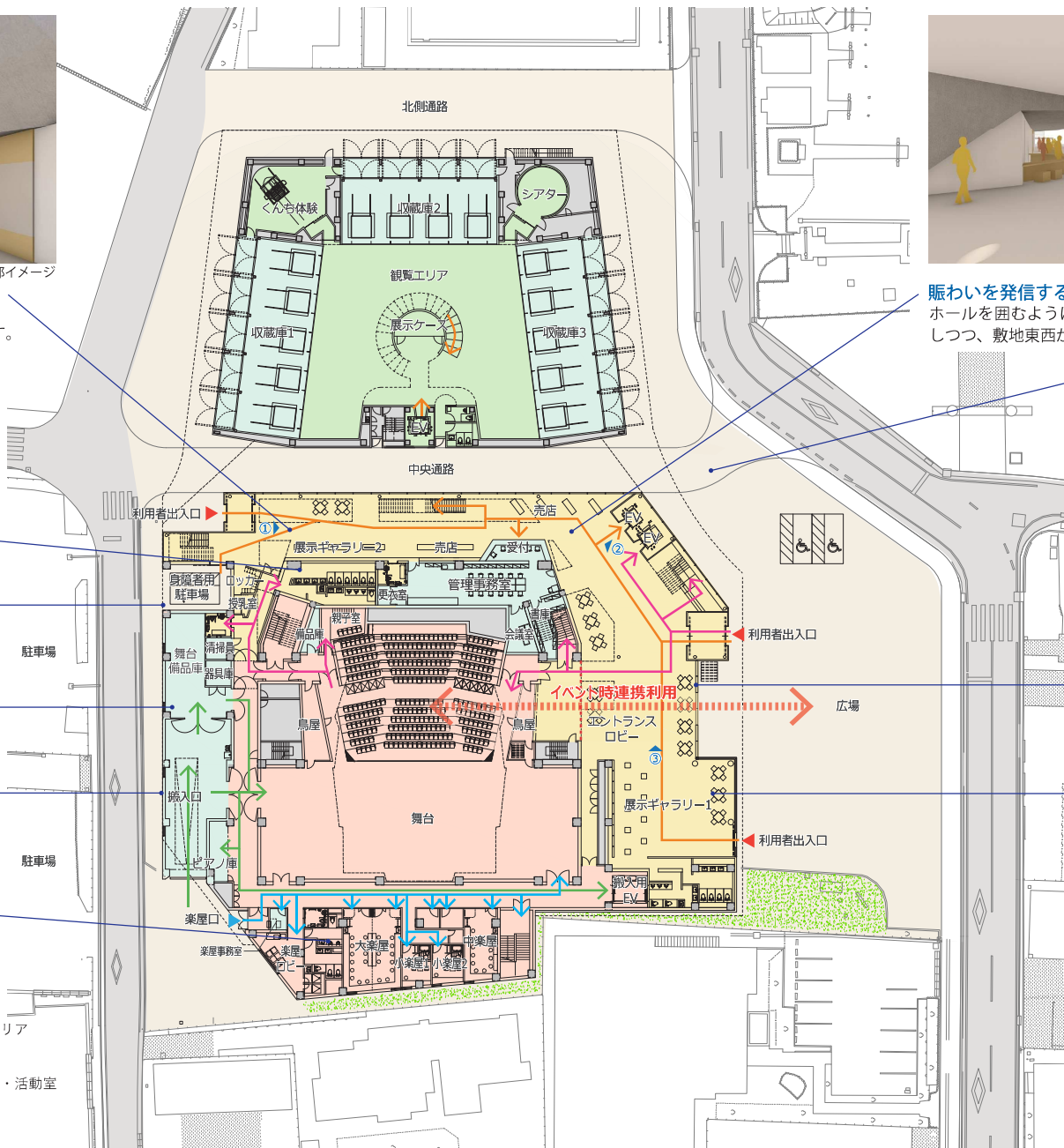
搬入口

舞台備品庫、舞台袖と隣接配置し、使いやすく無駄の無い搬入が可能です。(※ 11tトラック対応可能)

楽屋関係諸室

楽屋諸室を舞台後方に集約、演者と利用者動線を明確に分離し、利便性の向上を図ります。外部に面して配置し自然採光・通風が可能です。

- 凡例
- 施設利用者動線
 - ホール利用者動線
 - 出演者動線
 - 搬入動線
 - ホワイエ有料区画
 - ホール関連エリア
 - 展示エリア
 - 共用部エリア
 - リハーサル室・活動室
 - 管理諸室
 - 機械室等



②共用部イメージ

賑わいを発信する共用部

ホールを囲むようにし字に共用部を設け、街に賑わいを発信しつつ、敷地東西からのアクセスに配慮します。

中央通路

既存と同位置に中央通路を整備し、通路や生活動線に配慮します。



③共用部イメージ

フルオープン開口

フルオープンにできる開口を設け、広場・ホールとの連携利用を促進します。

展示ギャラリー1

市内のお祭り等を展示する、展示ギャラリーを配置予定です。



展示参考事例



施設計画 3

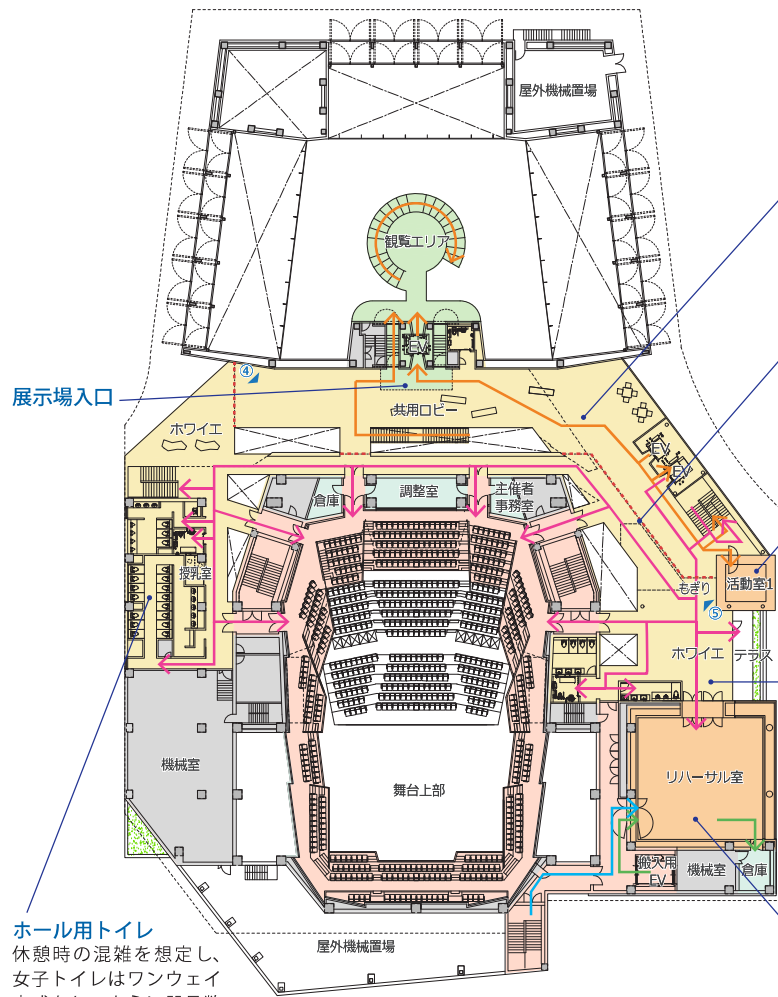
- 凡例
- (オレンジ) : 施設利用者動線
 - (ピンク) : ホール利用者動線
 - (青) : 出演者動線
 - (緑) : 搬入動線
 - (赤点線) : ホワイエ有料区画
 - (オレンジ) : ホール関連エリア
 - (緑) : 展示エリア
 - (黄緑) : 共用部エリア
 - (茶) : リハーサル室・活動室
 - (灰) : 管理諸室
 - (白) : 機械室等



④ 2F 共用ロビーイメージ



⑥ 3F ホワイエイメージ



展示場入口

ホール用トイレ
休憩時の混雑を想定し、女子トイレはワンウェイ方式とし、さらに器具数を十分に確保します。

共用ロビー
上部が吹き抜けた開放的なつくりの共用ロビー
(※無料の展示スペースあり)

ホワイエ有料区画
ホワイエは、ホール不使用時は共用部として利用可能とするため、テープインバリカーによる簡易区画とする予定です。

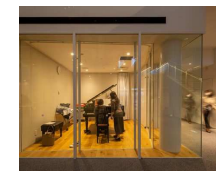
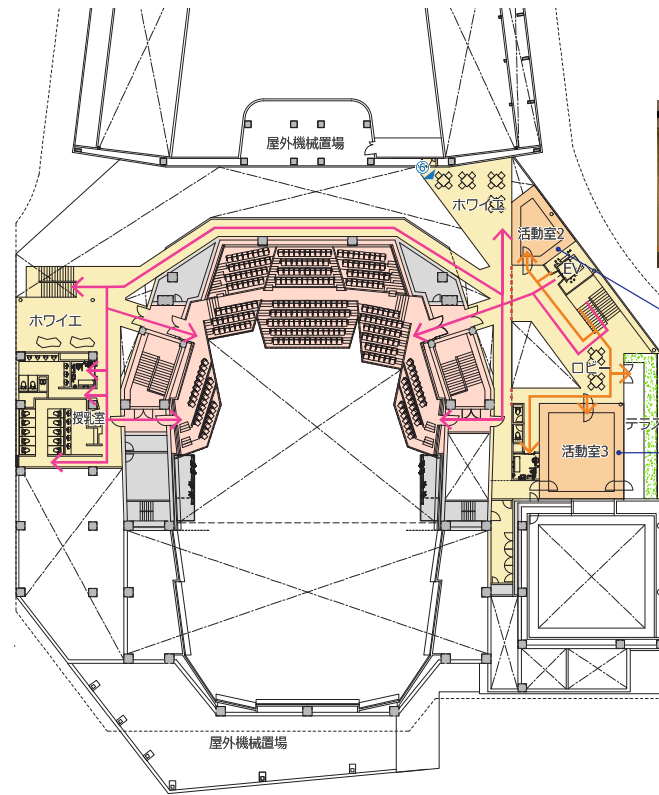
活動室 1
広場に面して配置し、開口部を設けることで中の様子が見え、市民の交流と日常的な文化活動を促進させ、賑わいを生み出します。

ホワイエ
広場に面した眺望の良いホワイエ



⑤ 2F ホワイエイメージ

リハーサル室
裏・表の動線を確保し、イベント利用、楽屋利用としても可能です。十分な遮音性能を確保します。



活動室イメージ

活動室 2
少人数の会議室としても利用可能です。

活動室 3
大会議室としても利用可能です。

2階平面図

3階平面図



魅せる曳山展示場をつくります

■ 迫力ある曳山展示

- コ型の平面形状とすることで、14台の曳山を一望可能とし、曳山に囲まれた迫力ある展示空間とします。
- 2階に円形の観覧エリアを設け、床高さを町屋の2階と同等の3m程度の高さとするこで、曳山と同じ目線で観覧可能とします。

■ 2種類の体験展示

- 唐津くんちを疑似体験できる展示や、円形の映像シアター等、体感性が高く、迫力のある演出を行います。



■ 曳山の保存環境

- 収蔵庫内は微風速空調とし、温度を均一に保ちつつ、気流を抑えて結露を防止し、曳山の劣化を防ぎます。
- 展示場出入口には前室を確保し、自動ドアとすることで、外光の流入を最小限とします。
- 曳山搬出入用の扉は、前室を設けた二重扉とし、外部温湿度の影響を最小化します。



西面



北面



2F 観覧エリアからのイメージ



観覧エリアイメージ

くんち体験

実物大の曳山の模型を実際に曳く体験が可能です。

収蔵庫

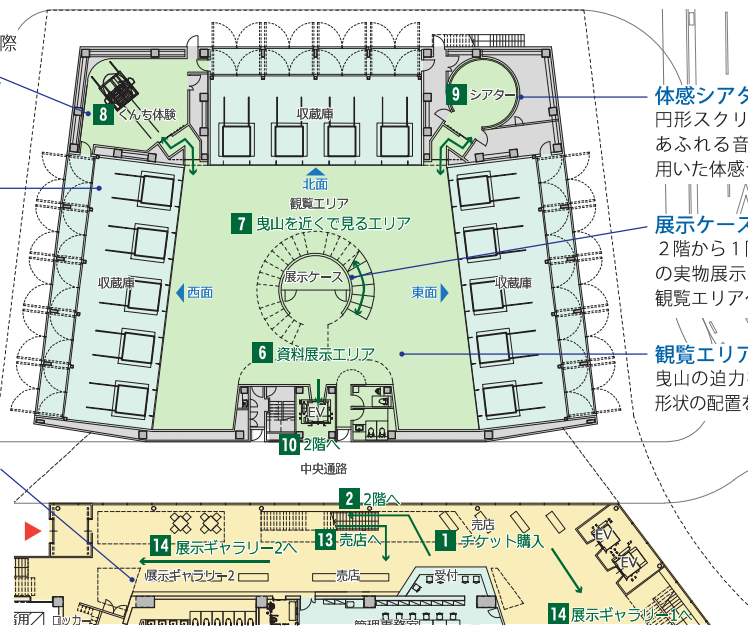
温湿度環境を整備し、また二重扉とすることで、適切な保存環境とします。

展示ギャラリー2

デジタルサイネージ等を用い、市内文化施設の開館情報・イベント・観光情報を発信していきます。

凡例

1~12: 展示場来場者動線
→



体感シアター

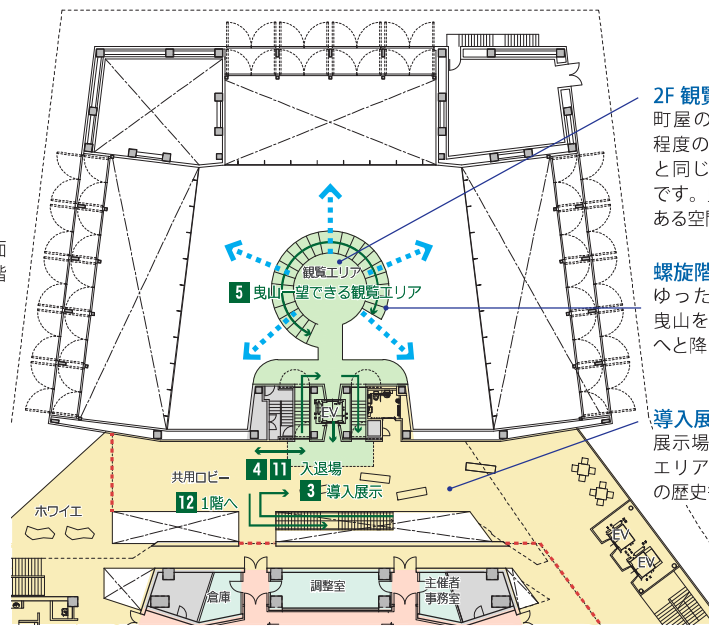
円形スクリーンで臨場感あふれる音響や、映像を用いた体感シアターです。

展示ケース

2階から1階へ降りて正面の実物展示を鑑賞後、1階観覧エリアへ向かいます。

観覧エリア

曳山の迫力を伝えるコ型形状の配置を実現します。



2F 観覧エリア

町屋の2階と同等の3m程度の床高さとし、曳山と同じ目線で観覧が可能です。曳山に囲まれた迫力ある空間とします。

螺旋階段

ゆったりとした階段で、曳山を観覧しながら1階へと降りていきます。

導入展示

展示場入場前の無料展示エリアです。唐津くんちの歴史等を展示します。

臨場感あふれるホールを実現します

■ ワインヤード型多目的ホール

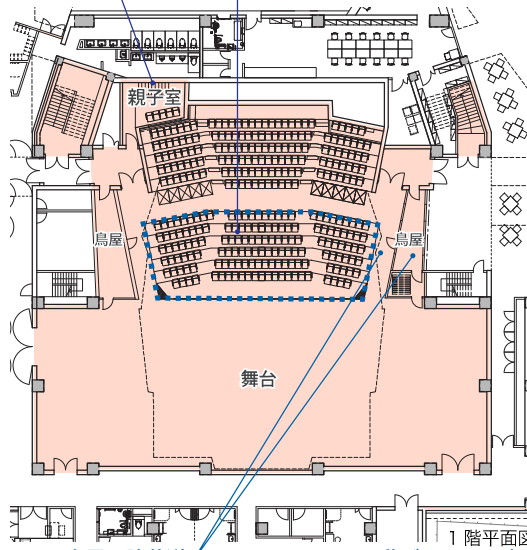
- ・ワインヤード形式とは、ブドウ畑のように客席が段状に分割され、舞台を取り囲み、客席と一体化するダイナミックなホールです。
- ・舞台側の客席を可動式とすることで、演劇等に対応したプロセニウム形式にも対応可能な、日本でも類を見ない、ワインヤード型多目的ホールとします。



舞台からのイメージ

親子室

子どもの声が客席に聞こえない遮音性能を確保

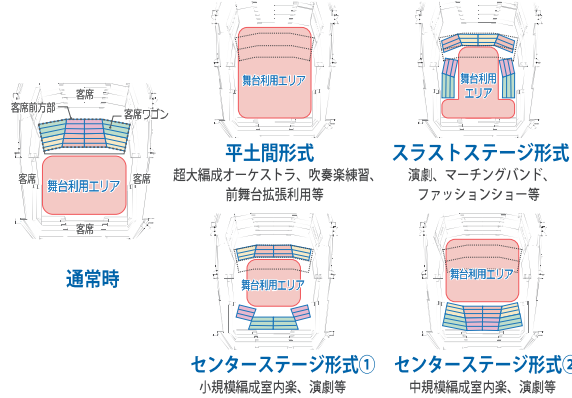


鳥屋・脇花道
様々な演目を想定し、鳥屋・脇花道を設置

可動バルコニー席
演劇や、講演等の幕形式時には舞台上のバルコニー席を袖に収納できます。

■ 多様な利用形態に対応可能

- ・1階客席前部は客席ワゴンを移動することで、様々なパターンの客席形状に展開可能なホールです。



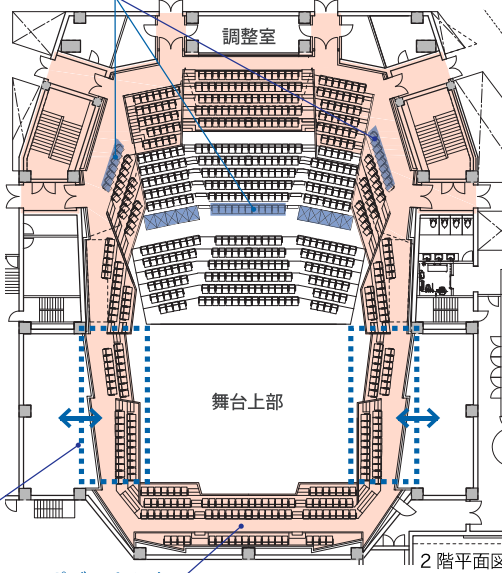
通常時

センターステージ形式①
小規模編成室内楽、演劇等

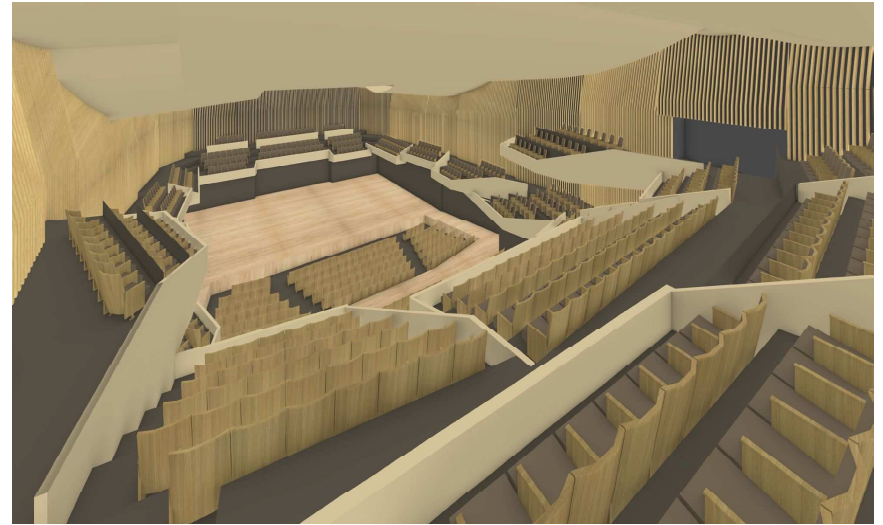
センターステージ形式②
中規模編成室内楽、演劇等

車いす席

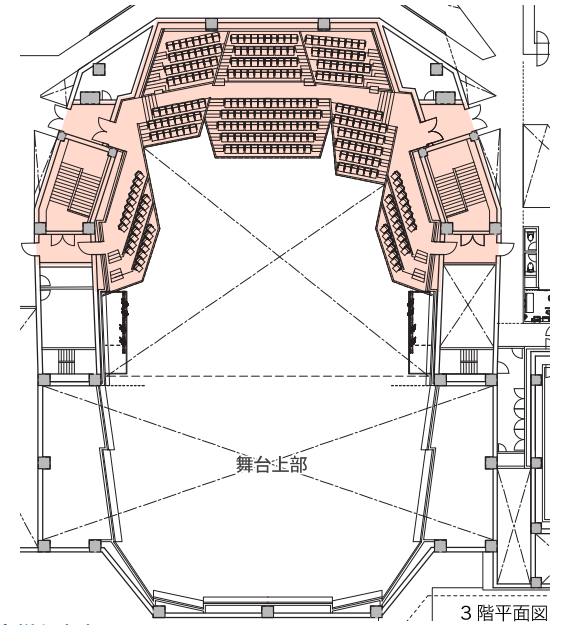
1階横通路の車いす席に加えて取り外し可能な客席を各所に設け、車いす利用者のニーズに柔軟に対応できます。



ボディウム席
舞台後方の席。舞台を取り囲むことで強い一体感が得られるほか、演奏者に近く、演奏技術を間近で見ることが可能です。



客席からのイメージ

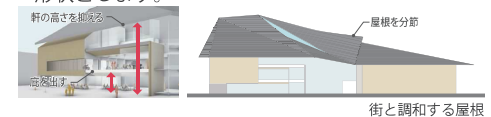


多様な客席
ワインヤード形式の客席形状により、客席によって見え方が異なり、何度訪れても楽しむことのできる客席配置とします。



■ 街と調和する施設を一体化する屋根

- ・市民会館と曳山展示場をつなぐ屋根は分節され、落ち着いた色彩とすることで、街並みとの調和を図ります。
- ・外周に高さを抑えて軒を出すことで、圧迫感を低減しながら、周辺環境と調和させます。
- ・屋根形状は曳山や市民活動の躍動感を想起させる形状とします。



街と調和する屋根

■ 唐津の街並みを外壁に再現

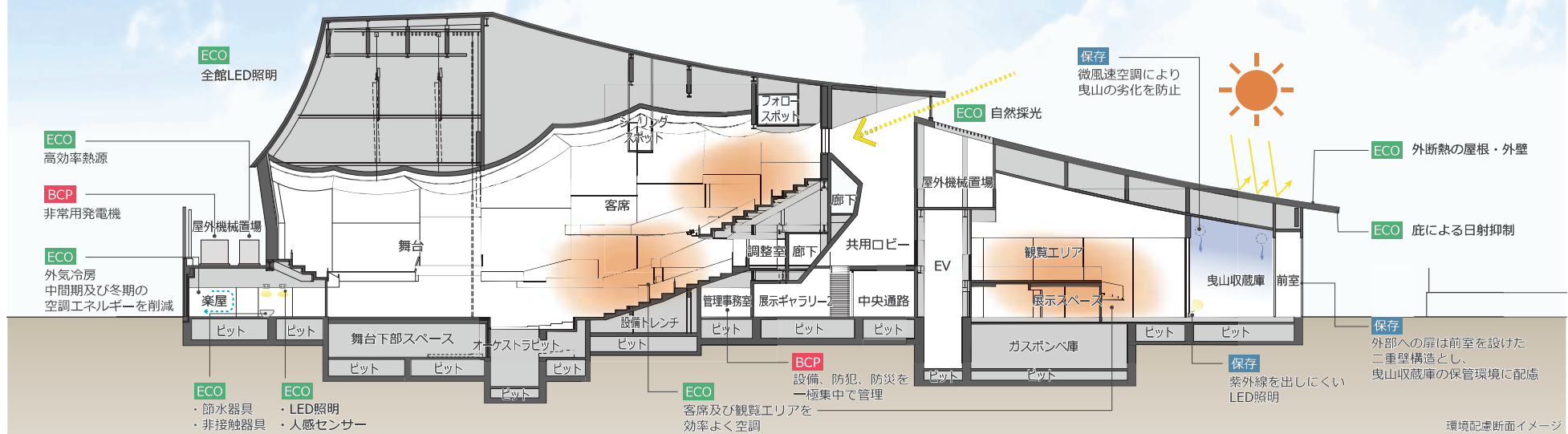
- ・漆喰の壁、杉板貼り等の町屋の外観を踏襲し、色数を抑えた白壁と木壁で外壁を構成します。
- ・建築壁面を分節することで、周辺との調和を図ります。



市内の町屋のイメージを踏襲

■ 環境・設備計画

・低炭素社会の実現に向けて、効率的な冷暖房等を行うための地中熱エネルギーの導入、太陽の光エネルギーを利用した太陽光発電、貯めた雨水を樹木への散水、トイレの洗浄水などに再利用する雨水利用など、再生可能エネルギーの導入を検討しています。



新唐津市民会館（仮称）改築設計業務

基本設計（案）【概要版】

※この基本設計（案）【概要版】は、パブリックコメント時点のものであり、今後内容に変更が生じる場合があります。